

2021年度
地球環境『自然学』講座
第10回

テーマ

グリーンランドの
自然環境と先住民族

講 師

一般社団法人 アバンナット北極プロジェクト

代表理事 山崎 哲秀先生

2021年9月11日

認定NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール

山崎 哲秀（やまさき てつひで）



1. 経歴

犬ぞり北極探検家

1967 年 10 月 兵庫県生まれ。幼少期を福井県、少年期を京都で過ごす。大阪府高槻市在住。2 児の父親。

1988 年にアマゾン河イカダ下り単独行を経て、1989 年からは北極圏（主にグリーンランド）遠征を繰り返し、グリーンランド北西部エスキモー式の犬ぞり技術や狩猟技術を伝承される。

北極圏での数々の観測調査をはじめ、第 46 次日本南極地域観測隊（越冬）にも参加し、現在は犬ぞりによる“アバンナット北極圏環境調査活動”と合わせて、“グリーンランド北西部地方と日本の地域との姉妹都市提携”に向けて取り組んでいる。

（公社）日本雪氷学会会員。北極倶楽部会員。南極倶楽部会員。

2009 年 第 4 回モンベルチャレンジアワード受賞。

2011 年 国際ソロプチミスト日本財団、環境貢献賞を受賞。

2. 現職

一般社団法人 アバンナット北極プロジェクト 代表理事。

3. 著書

2013 年「～犬ぞりがゆく～エスキモー犬たちの北極」（自費出版）

2015 年「エスキモー犬たちの北極大冒険」kindle 版（UP BOOK&MAGAZINES）

2018 年「犬ぞり探検家が見た！ふしぎな北極のせかい」（repicbook リピックブック）

1. 自己紹介

2. 北極と南極の違い ～グリーンランドは何処にある？～

- ・ 余談 ～グリーンランドの Covid-19(新型コロナ)事情～

3. 北極の自然

- ・ 四季の移り変わり

4. 北極の生活環境

- ・ 住んでいる人々と住居
- ・ 棲息する生きものと狩猟
- ・ 食生活
- ・ 設備

5. 北極の自然環境

- ・ ゴミ問題
- ・ 北極の温暖
- ・ 研究者による観測調査
- ・ 気候変動により、注目される北極域

6. 犬ぞりの話

7. 北極での活動

- ・ 取り組みと、今後の目標・展望

アバンナット北極プロジェクト



北極圏をテツがゆく

59

北極通信

アバンナット北極プロジェクト

～北極圏をテツがゆく～

第 59 号

2021 年 4 月 30 日 発行

アバンナット北極プロジェクト
を応援・サポートして下さっている
皆様に、活動報告を致します。



ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~avangnaq>

ブログ <http://avangnaq.blog.jp/>

予想以上に Covid-19 騒動の終息が見えません。予定に狂いが応じつつも、活動を続けています。北極通信第 59 号は、グリーンランド滞在中の 2020 年 12 月中旬から、2021 年 4 月末までの活動報告です。

【2020 年 12 月中旬から 2021 年 4 月下旬の活動報告】

12 月上旬から始めた、シオラパルク村のあるフィヨルド内、9 定点の海水データ収集は、12 月中旬以降も極夜の中、天気の良い日は犬たちと共に橇を走らせ、坦々と作業を続けた。



2021 年 2 月 12 日に海水が流失し、開水したフィヨルド全景

2 月 16 日に極夜が明けた。

今シーズンの極夜中は、海水表面に積雪が多かったせいか、2 月中旬までに 50cm 前後しか海水の厚さが発達せず、2 月 10 日から 12 日にかけて吹き荒れたブリザードで、フィヨルド内の海水が殆ど流失してしまうという、珍しい現象が起きた。シオラパルク村に通い続けて 30 数年になるが、厳冬の 2 月にフィヨルド内の海水が流失するのは、初めて見る光景だった。長い目で見ると、一冬の貴重なデータになるとと思われる。

少しずつ、こういった収集したデータが、研究発表にも使われてきており、さらにお役に立てるように継続していきたい。

冬の厳しい自然環境下での活動を得意としているので、冬期シーズンにしか出来ない、さらに多くのデータ収集課題を頂きたいと思っている。冬期中の現地観測サポートも大歓迎だ。

日本から研究者チームが、11 月にシオラパルク村に観測調査に入る予定が、Covid-19 の規制で予定が遅れ、到着したのが 3

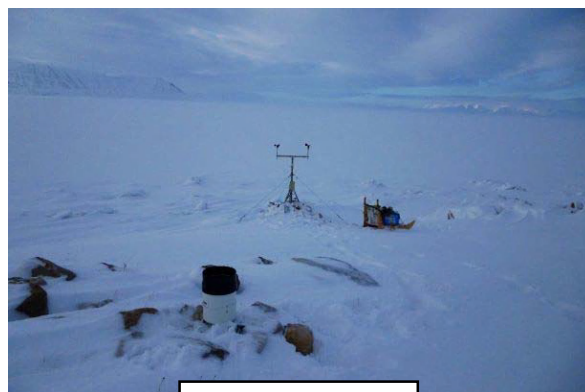


海水データ収集風景

月中旬だった。数名のチームでの訪問予定であったが、研究機関側もコロナ騒動で、海外渡航の規制を布いており、今回は長年の友人でもある研究者、的場澄人さんが代表として一人での訪問となり、3~4 シーズンに亘って実施される、大気関係の観測調査の立ち上げを、4 月中旬までサポートした。今後、シオラパルク周辺での観測調査が、多規模となっていくようにサポートしていきたい。



エアロゾルサンプリング計を設置する的場さん



自動気象計と雨量計

5 月から 6 月にかけて、グリーンランド東海岸側の標高 3000m の氷床上で、氷掘削調査を別件で控えており、シオラパルクでの今シーズンの作業は、4 月中旬までに全て終了した。

【ワンコたちの報告】



ダイヤ

12 月 30 日に、1 歳半のコナツが仔犬を 4 匹産んだ。雌 1 匹と雄 3 匹だ。コナツは今回が初産。

冬に生まれた仔犬は、厳しい寒さで育ちにくいですが、この冬は比較的に気温が暖かく、子育てには良かった。1 匹も亡くなってしまうことなく、順調に育ってくれている。名前は雌犬が「ダイヤ」で、5 歳の娘が名付けた。ダイヤモンドのことらしい。女の子らしい名付けかただ（笑）。また雄犬の 1 匹は「ナイト（騎士）」で、これは 8 歳の息子が名付けた。男の子らしい名付けかただ（笑）。

あと 2 匹は、顔の毛並みの模様がハート型に見えるので、こちらの言葉で「ウンマターファ（♡）」ハートの意味。もう 1 匹は「ミターット」。年末に、キリスト教にちなんだと思われる、仮装をして家々を訪れる、ミターットと現地語で言われているイベントがあり、顔の毛並みが仮装で描いたように見えるので、そう名付けることにした。



ナイト



ウンマターファ



ミターット

生後 3 か月前に、母犬と走るレッスンを始め、4 月中旬までには胴バンドを装着して、橇に繋いで軽く走るところまで教えることができた。4 匹とも覚えがいい。ここまですべてやっていたら、次の冬にはすんなりと、橇を曳いて走ることが出来る。僕なりの仔犬を教えていくパターンで、来シーズンがとも楽しみだ。夏期中に病気になることなく、育って欲しい。

また、3 月に入って、チーム編成に変化があった。雄犬の長老ヒヤカ 10 歳、ポケット 6 歳、ラング 4 歳と、雌犬のリッカ 7 歳を、昔からお世話になっている、シオラパルク村の、ユーソッフ



3 月中旬に、母犬とリーダー犬の銀河と共に走行レッスンを始めた

ィ爺さんに譲ることになった。走れる犬が手元におらず、困っていたのだ。

若いワンコは落ち着きがなく、パワーがあり過ぎて、年をとった爺さんは手に負えないとのことで、ベテラン犬を選んで、ユーソッフィ爺さんのところへ貰われていくことになった。僕もチームの若返りをしたいと思っていたので、上手く思感が一致した感じだ。これまでにユーソッフィ爺さんから、随分とたくさんワンコを譲ってもらっていたので、少しは返すことができたかな。

今の僕のチームは、コナツ親子（1頭+3匹）、雄犬7頭と雌犬2頭の、全部で13頭となった。

【シオラパルク村に、日本人が4人】

この冬、グリーンランド最北のシオラパルク村は、日本人がなんと4人も滞在するという、面白い期間だった。夏には観光なども含め、訪れる人も多いが、冬に訪れる人はほんとに少ないのだ。

一人は50年ほど前にこの地を訪れ、そのまま現地の女性と結婚して住み着いた、大島育雄さん。エスキモー猟師として生活を続け、今も村に住み続けている。もう一人は、ノンフィクション作家であり探検家でもある、角幡唯介さん。そして研究者の的場澄人さんが、今冬は観測調査で滞在した。

シオラパルク村はかつて、冒険家の植村直己さんが初めて日本人として足を踏み入れて以降、日本とは切っても切れない縁の深い村となった。その伝統が続いている村なのだ。

時代の流れと共に、狩猟生活の基点であったシオラパルク村も人口が激減して、今は40人前後となってしまった。ある意味、いつ廃村になってもおかしくはない村となった。

僕の北極での最終目標、夢は、日本人とも歴史的に関りの深いこの村を、観測の拠点として存続させること。また、この地域と日本の地域とを、姉妹都市・友好都市として結ぶことだ。次の世代へ繋げたい。残したい。僕の役割りだと思っている。詳しくは、このあとの【アバンナット北極プロジェクト】項に記しています。



角幡さん（右）と

【グリーンランド東海岸での、5月から6月の観測調査予定】

5月から6月にかけて、グリーンランド東海岸側での観測調査サポートを控えている。これは南東部地方での、氷床掘削（ボーリング）で（地図の氷床掘削地点）、直径10cmほどの氷の試料（コア）を、300mほど掘進して日本に持ち帰るという計画だ。

長年雪が降り積もって出来た氷は、深度ごとに細かく成分を分析することによって、その当時の気候や、大気汚染状況等々が分かる。多岐にわたる情報が詰め込まれている、貴重な試料なのだ。

本来なら、2020年の同時期に実施される計画だったが、コロナ騒動の影響で、延期となっていた。

日本からの本隊（研究者3名）は、グリーンランドでの観測調査の許可を得て、4月22日にグリーンランド入りした。僕は的場さんと共に、シオラパルクから移動し、規定のコロナ待機期間を終えた本隊と、4月26日に合流した。このあと5月上旬から1ヶ月半ほど、内陸氷床でのテント生活になる。北極通信の次号で、観測調査の様子を報告したいと思います。



グリーンランド地図

【北極活動を応援して下さっている皆様へ】

アバンナット北極プロジェクトを応援して頂いて、いつもありがとうございます。

予想以上に、コロナ騒動の波が止みません。こういった状況の中、これまでと変わらず北極での活動を継続させて頂いていることに、感謝するとともに、後ろめたさを感じないわけではありません。しかし、これらの北極活動は、30年以上も続けている、僕の人生・生き方であり、信念です。冒険心から始まった北極が、活動を重ねるごとに、自分一人のことではない目標へと具体化してきました。それを、なんとか形にして次の世代に繋げたい。そんな想いで取り組んでいます。

いつものシーズンですと、5月上旬に帰国して、日本国内での活動を行うのですが、もう一つ、どうしてもサポートをしたい観測調査が、5～6月に控えます。コロナ騒動の規制の中、グリーンランドへと足を運んで来た、研究者の方々がおられます。昨年、延期となった観測調査です。

これらの一つ一つが、日本の極地観測界の財産となると信じます。帰国は6月末から7月上旬の予定です。皆さま、今しばらく、山崎哲秀の北極活動の応援・支援を、宜しくお願い致します。

山崎 哲秀

東グリーンランド・Kulusuk（クルスク）にて（2021年4月30日）

※今回の北極通信第59号の編集が、バタバタしていて、少し雑になった気がします。伝えきれていない報告もありますが、次号でまた報告させていただきます。

【アバンナット北極プロジェクト】

2017年11月に立ち上げた「一般社団法人 アバンナット北極プロジェクト」は、2006年から取り組んで来た「犬ぞりによるアバンナット北極圏環境調査プロジェクト」を通じて、さらに活動の視野が広がり、また目標の焦点が明確に定まった上で、ステップアップした活動です。

山崎哲秀は、日本の北極域観測調査および南極域観測調査にも携わってきました。地球の自然環境の変化が最も現われやすいと言われる北極地方が、世界中で注目を浴びる中、将来グリーンランド最北のシオラパルク村に、日本の北極観測施設を設置することも視野に入れています。一つの大きな目標です。

シオラパルクは、僕も30年ほど前から北極活動のベースとしていますが、そのシオラパルクに、廃村の危機が囁かれています。世界最北の先住民族の村、グリーンランド「シオラパルク」は、植村直己・大島育雄、お二人の先駆者が、日本人として初めて足を踏み入れ、日本人が北極に関わる歴史において、とても繋がりが深い村です。お二人の貢献により、グリーンランドでは（特にシオラパルクを中心としたグリーンランド北西部地方）、親日感情が他のどの国に対してよりも良好である、という事実はあまり日本では知られていません。また同一民族でありながらもこれまで、両国間の交流が乏しいことは、実に残念でなりません。

アバンナット北極プロジェクトは、グリーンランド北西部地域と日本の地域とを友好都市・姉妹都市で結び、継続した国際・文化交流を通じて、シオラパルク村の存続を目指すことも一つの目標としています。ちなみに日本国内で展開している展示会は、姉妹都市提携に向けた活動の一環です。

姉妹都市提携、またその後の国際・文化交流の取り組みは、日本の北極観測調査においてもスムーズな進行が可能となり有益で、シオラパルク村の存続にも繋がります。

北極活動での目標を、10年（～15年）計画で達成するために、2017年11月に「一般社団法人 アバンナット北極プロジェクト」を立ち上げました。

個人的な営利やビジネスを目的としているのではなく、目標達成後は、しかるべき研究機関に、それらを行行したいと考えております。



- ① 日本の北極観測における民間による支援体制の整備（特に野外観測調査でのサポート体制）
- ② グリーンランド極北域（グリーンランド最北のシオラパルク村とその北域）とカナダ極北地域（メルビル島）に、日本の観測施設を設置する（民間企業・団体等からの設営費用、賛助金の獲得を目指す）
- ③ エスキモー民族（グリーンランド北西部地方）と日本の地域との姉妹都市提携およびその後の継続した両地域間の国際・文化交流
- ④ エスキモー民族伝統文化（犬ぞりなど）の継承

アバンナット北極活動は2017年11月から、

「一般社団法人 アバンナット北極プロジェクト」として新たに活動をスタートしました。



「北極圏をテツがゆく」ホームページです。

<http://www.eonet.ne.jp/~avangnaq/>

アバンナット北極プロジェクトは次の企業に協賛いただいています。



<http://www.montbell.jp/>

Special thanks

南佐（ありさ）& 勇（ゆうき）& 多（たから）

※帰国が夏になってしまいます。ゴメンね。こうして北極で取り組んでいられるのも、日本で家族というベースがあるからです。感謝しています。ありがとう！





2006年から継続している「アバンナット北極プロジェクト」は、応援して下さっている皆さまのもと、活動が成り立っております。また活動において、環境にもやさしい“犬ぞり”は、欠かせない移動・活動手段です。

アバンナット活動では、活動を共にしているワンコたちのサポーターを募集しています。毎シーズン、アバンナット・ドッグチームは15頭前後の犬達が活躍しています。彼らの年間飼育費は、餌代、世話代、予防接種などなど、費用がどうしても膨大になります。それらの費用につきましては、大部分を山崎哲秀の個人負担と、サポーター支援という形で応援して下さる皆さまからの支援金を募り賄っています。

ご支援、ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

犬サポーター支援においては、年間にかかる犬たちの飼育費に利用させていただきます。

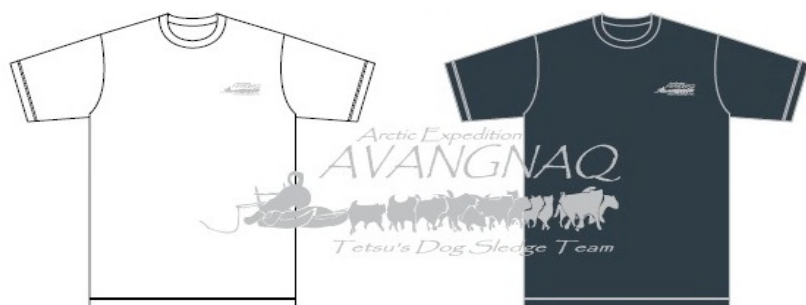
販売のお知らせ



犬ぞりTシャツ第4弾が完成しました。Tシャツの色は白の1種類で、素材は速乾性素材です。背面には、グリーンランドの犬ぞりスタイルである「扇状」に繋がれている犬達の写真を、色落ちが少ない昇華プリントでカラー印刷しています。ご希望の方は、発送先と希望サイズ、数量をお知らせ下さい。支払い方法は、発送に合わせて案内を同封致します。

T シャツ第4弾 サイズ、価格（送料込み）

(XL) (L) (M) (S) ¥2500 / ジュニア 身長 (150cm(XS)) (130cm) ¥2000



引き続き販売しています

犬ぞりTシャツ第3弾を引き続き販売しています。Tシャツの色は白と紺の2種類で、素材は速乾性素材です。デザインはシンプルに、左胸に左記のようなグレー色の犬ぞりシルエットのロゴが入っています。

ご希望の方は、発送先と希望Tシャツの色、サイズ、数量をお知らせ下さい。

T シャツ第3弾 サイズ、価格（送料込み）

(XL) (L) (M) (S) ¥2500 / ジュニア 身長 (150cm(XS)) (130cm) ¥2000

発送先と希望のTシャツの色、サイズ、数量をお知らせ下さい。支払方法は、発送に合わせて案内を同封致します。グッズの売り上げにおいては、アバンナットプロジェクト活動費の一部として使用させて頂きます。

これらの支援金につきましては用途を明確にし、シーズン終了後に収支報告しています。どうぞよろしくご支援をお願い致します。

カレンダー、犬サポーター、Tシャツのお問い合わせ、お申込み

アバンナット北極プロジェクト事務局
公用電話 090-9164-2474

E-mail : avangnaq@gaia.eonet.ne.jp
FAX 072-629-1409 まで